

木蓮

春 遠 か ら じ

冬の寒さはきびしくても、春の到来はそう遠いことではありません。「冬来たりなば春遠からじ」という成句は、暗い逆境にあっても明るい希望を失うなど、励ましの意味を重ね合わせて使うケースが多くあります。出典はイギリスのロマン派詩人シェリーの『西風の賦(ふ)』です。彼は 1819 年の秋にイタリアのフィレンツェ付近で激しい西風に遭い、「荒れ狂う西風よ！ 迸り出る秋の息吹よ！……」に始まる長詩をつくりました。その末尾は、「西風よ！ 私の唇を通して、まだ醒めやらぬ全世界に対する/予言の喇叭(らっぱ)を響かせてくれ！ おお西風よ、/冬来たりなば春遠からじ、と私は今こそ叫ぶ！」と結ばれます。島崎藤村の長詩「秋風の歌」はこの「西風の賦」の影響を受けて作られたといわれています。イギリスの西風といえば、春を呼ぶそよ風のこと、日本では東風にあたります。東風が春の訪れを告げるのもすぐそこです。

節目の春に向けて 1 日 1 日を大切に過ごせるよう、図書館もあなたを応援しています。

新着雑誌

『オレンジページ』

オレンジページ

パルティンスイーツ

2/27 日号

●クッキング、生活、健康等に関する誌生活情報誌です。おいしそうなレシ

図書委員がすすめる

読んで得するテッパン本

『少年陰陽師』 結城光流著

時は平安。安倍昌浩は、稀代の大陰陽師安倍晴明の孫で、半人前の陰陽師です。相棒の物の怪もつくんと、修行に励み、異邦の大妖怪を倒したり、黄泉の屍鬼の大群から都を救ったりします。(14H)

『九つの物語』 橋本紡著

大学生のゆきなの前に、長く会っていなかった兄が現れます。いつまでも幸せな日々が続くと思いましたが、やがて兄の不在の理由を思い出し、人生の痛みを知ることにになります。ゆきが、やさしく強く成長していく姿に感動します。

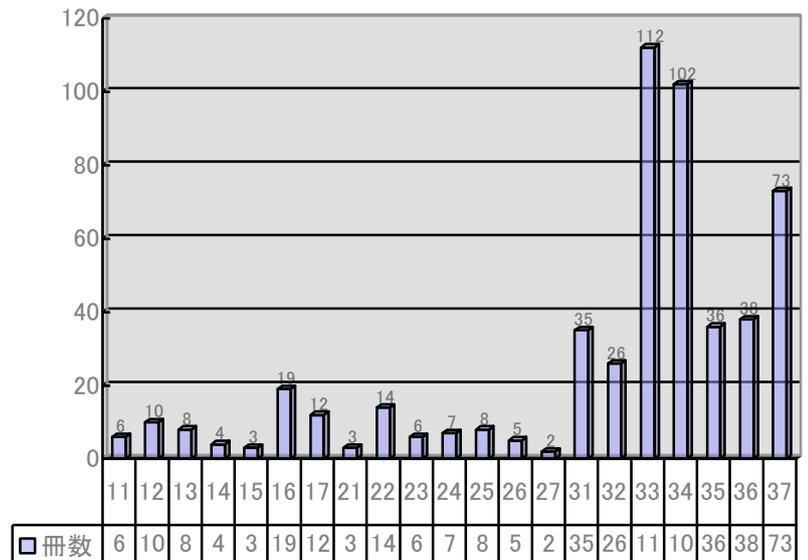
(15H)

『心霊探偵八雲』 神永 学著

様々な謎を解決していくところがとてもおもしろいです。生まれながらに赤い左目を持つ主人公を始め、個性的な登場人物がたくさんいて、読み出しただけで止まりません。

(16H)

図書館利用統計【12月1日~1月30日】



12月～1月の図書貸し出し総数は529冊でした。開館日数は33日で、1日平均にすると約16冊の貸し出しです。学年別では3年生が422冊、2年生が45冊で、1年生は62冊でした。入館者の総数は3,919人で、1日平均約119人の利用でした。図書館での授業は55時間です。1.2年生の貸し出し冊数を合計した4倍近くを3年生が貸し出ししています。やっぱり3年生はすごい！

報告 読書会を開催しました！

*日時 1月23日(金) 15:30~16:30
*テキスト『フォーゲットミー、ノットブルー』 柚木 麻子著
開催予定は12月18日でしたが、雪のため延期となり、1月23日に読書会が行われました。参加者は7名。「みんないろんな見方感じ方があるんだなと思った」「堅苦しくなくて思ったより話やすかった」などの意見がでました。

